

第7問	民法	保証債務	司法試験R3-19
-----	----	------	-----------

〔第7問〕

個人であるAがBのCに対する債務を保証する場合に関する次のアからオまでの各記述のうち、誤っているものを組み合わせたものは、後記1から5までのうちどれか。

ア. Aが、Bの委託を受けて、Bの事業に係る債務を保証しようとする場合、Bは、保証契約の締結に当たり、Aに対し、Bの財産及び収支の状況について情報を提供しなければならない。

イ. Bの債務がBの事業のために負担した貸金債務である場合、AC間の保証契約は、Aが保証債務を履行する意思を保証契約の締結後速やかに公正証書で表示することにより、その効力を生ずる。

ウ. Aが、Bの委託を受けて保証した場合、Cは、定期的に、Aに対し、主たる債務の元本及び利息について、不履行の有無、残額及び弁済期が到来しているものの額に関する情報を提供しなければならない。

エ. Bがその有していた期限の利益を喪失した場合、Cは、Aに対し、その旨を通知しなければならない。

オ. Aの保証が根保証である場合、極度額が定められなければ、その効力は生じない。

1. ア ウ      2. ア オ      3. イ ウ      4. イ エ      5. エ オ

第7問	民法	保証債務	正解 3
-----	----	------	------

**ア正しい。** 465条の10第1項1号。465条の10第1項柱書は、「主たる債務者は、事業のために負担する債務を主たる債務とする保証又は主たる債務の範囲に事業のために負担する債務が含まれる根保証の委託をするときは、委託を受ける者に対し、次に掲げる事項に関する情報を提供しなければならない。」と規定し、同項1号は、「財産及び収支の状況」と規定している。

その趣旨は、事業のために負担する債務は高額になりがちであり、保証を引き受けるかどうかを決定する際には主債務者の返済能力にかかわる情報が重要であるため、保証委託契約の場合に、これに関する情報提供義務を課した点にある。

したがって、本記述は正しい。

**イ誤り。** 465条の6第1項。事業のために負担した貸金等債務を主たる債務とする保証契約又は主たる債務の範囲に事業のために負担する貸金等債務が含まれる根保証契約は、その契約の締結に先立ち、その締結の日前1箇月以内に作成された公正証書で保証人になろうとする者が保証債務を履行する意思を表示していなければ、その効力を生じない。

その趣旨は、事業に係る債務は高額になりがちであり、厳格な手続を用いることで保証人を保護した点にある。

よって、本記述において、Aは、保証契約の締結後ではなく、保証契約の締結に先立ち、保証債務を履行する意思を公正証書で表示しなければその効力を生じない。

したがって、本記述は、保証債務を履行する意思を保証契約の締結後速やかに公正証書で表示することにより、その効力を生ずるとしている点で、誤っている。

**ウ誤り。** 458条の2。保証人が主たる債務者の委託を受けて保証をした場合において、保証人の請求があったときは、債権者は、保証人に対し、遅滞なく、主たる債務の元本及び主たる債務に関する利息、違約金、損害賠償その他その債務に従たる全てのものについての不履行の有無並びにこれらの残額及びそのうち弁済期が到来しているものの額に関する情報を提供しなければならない。

その趣旨は、主たる債務者が主たる債務について債務不履行に陥ったものの、保証人が請求を受ける時点では遅延損害金が積み重なって多額の履行を求められるという酷な結果が生じることを防止するために、債権者に照会することを可能にした点にある。

よって、本記述において、Cは、定期的にAに対して、主たる債務の元本及び利息について情報提供をする必要はなく、Aの請求があったときは、かかる情報を提供しなければならない。

したがって、本記述は、Cは、定期的に、Aに対し、主たる債務の元本及び利息について…情報を提供しなければならないとしている点で、誤っている。

**エ正しい。** 458条の3第1項。主たる債務者が期限の利益を有する場合において、その利益を喪失したときは、債権者は、保証人に対し、その利益の喪失を知った時から2箇月以内に、その旨を通知しなければならない。

その趣旨は、主たる債務者が期限の利益を喪失した事実を保証人が知らない場合、知らぬ間に遅延損害金が積み重なって保証人が多額の履行を求められるおそれがあることから、保証人が個人である場合に限り債権者に通知義務を課すことで（同条3項）、個人保証人の保護を図るという点にある。

したがって、本記述は正しい。

**オ正しい。** 465条の2第2項。個人根保証契約は、前項に規定する極度額を定めなければ、その効力を生じない。個人貸金等根保証に限らず、あらゆる個人根保証について、極度額の定めが要求されている。本記述において、Aは個人であることから、個人根保証に当たるので、極度額が定められなければ、根保証の効力は生じない。

したがって、本記述は正しい。

以上により、誤っている記述はイとウであり、したがって、正解は肢3となる。

【MEMO】